

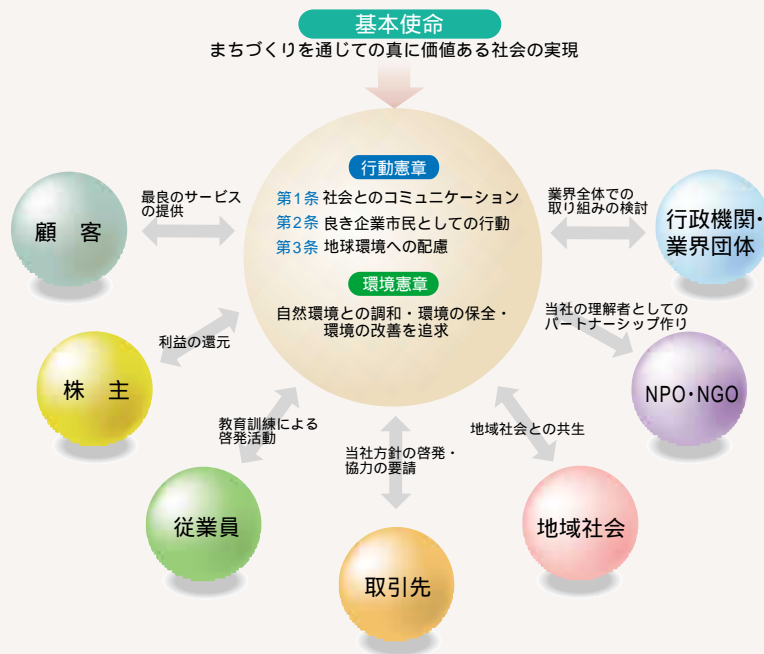
社会環境コミュニケーション

三菱地所グループは、幅広いステークホルダーと良好な関係を築いていきます。

三菱地所グループは、「まちづくりを通じての真に価値ある社会の実現」を基本使命とし、行動憲章第1条に「社会とのコミュニケーション」を、第2条に「良き企業市民としての行動」を明記しています。また、第3条で「地球環境への配慮」を経営の重点課題とすることを明らかにし、その実現のため「環境憲章」を制定して自然環境との調和・環境の保全・環境の改善をはかっています。

この実現のためには、企業活動に関わる社内外の幅広いステークホルダーと良好な関係を築き、コラボレート(共同・協力)していくことが重要です。

三菱地所グループでは、企業が果たすべきアカウンタビリティ(説明責任)を重視し、積極的に情報を発信すると同時に、ステークホルダーとの双方向のコミュニケーションを大切にしています。



顧客/株主とのコミュニケーション

三菱地所グループは、適切な情報の開示を行い、今後の活動にフィードバックをしていきます。

顧客・株主への情報開示

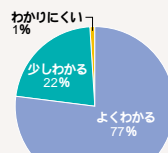
財務情報の開示はもとより環境情報の開示も行っています。ホームページに環境への取り組みのページを設け環境情報を積極的に開示しています。三菱地所グループの「環境報告書」の内容がダウンロードできるほか、環境憲章やISO14001の導入状況、エコロジーネットワークの広がりなど、環境関連の情報をタイムリーに更新しています。



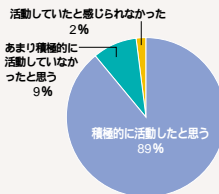
<http://www.mec.co.jp/j/commu/ecology/>

「環境報告書2001」のアンケート結果

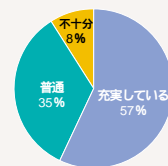
本報告書の感想はいかがですか。



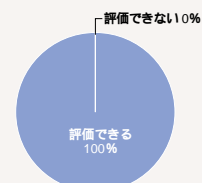
2000年度の環境活動について



報告書の内容について



三菱地所グループの環境問題への取り組みについて



どの活動内容に関心がありますか。(上位3項目)

三菱地所ビル管理運営部署の活動について

ビル全体のエネルギー使用量抑制
ビル全体の水道使用量抑制
古紙・瓶缶のリサイクル促進と使用済み蛍光灯の適正処理

三菱地所ホームの活動について

産業廃棄物の排出
一般廃棄物の排出(生ごみ、空き缶、紙等)の排出
注文住宅の省エネルギー化推進

頂いたご意見

アンケートの結果、多くのご意見をいただきました。主なものをご紹介します。事業活動においてどのような環境影響があるのか(17、25、31ページ参照)環境への取り組みについてトピックスのページがあればよい(36~39ページ参照)業績に関するデータを記載してほしい(7ページ参照)設計部門における環境への取り組みを紹介してほしい(24~29ページ参照)

環境教育・ボランティア支援

三菱地所グループでは、社員一人ひとりが環境問題を正しく認識し、企業の内外で環境に配慮した具体的な活動ができるよう、さまざまな環境教育やボランティア支援を行っています。

行動憲章の研修

環境保全や社会貢献、企業倫理に関する講演とグループ討議を通して、企業市民としての認識を深め、実践することを目的として、行動憲章の研修を行っています。2001年度は、約500名を対象として、春期と秋期の2回実施しました。



環境キャンペーンの開催

地球環境問題への理解を深めるため、社内で毎年、環境キャンペーンを開催しています。2001年度は6月5日の「環境の日」から4日間の日程で、家庭用生ゴミ処理機の実演・販売、環境関連ビデオの上映、産業廃棄物の現状や家電リサイクル法に関する展示などを行いました。また、来場者には「アクアシティお台場」の飲食店舗から出た生ゴミを原料とした有機肥料(37ページ参照)を配布しました。



ボランティア支援制度「社会人倶楽部」

ボランティアを希望する社員を登録し、ボランティア情報をメールで発信しています。また、ボランティア休暇やソーシャルラーニング(就業時間内の活動の許可) ボランティア活動中の事故を補償するための保険付保、家族を含めた活動費補助、マッチングギフト(社員の寄付と同額を会社が上乘せ)や社員提案型支援プログラムなどの支援制度の充実をはかり、社員のボランティア活動の支援・啓発を行っています。



各種ボランティアサークルの支援

視覚障害者に向けて作成しているカセットテープ「野鳥と自然のお便り」(丸の内さえずり館発行、年4回、約1,400本/回)には、多くの音訳・点字ボランティアが参加しています。この音訳ボランティアサークルは、(財)日本オリンピック委員会が毎月発行しているJOC広報誌「オリンピック」(年12回、約150本/回)の音訳テープも制作しています。こうした社員のボランティアサークルを支援するとともに、会社を退職したOB・OGにも社会参加を呼びかけ、「三菱地所ゆうゆう倶楽部」の設立(2001年12月)を支援しました。



情報紙の発行・情報コーナーの設置

各地域のボランティア活動やNPOに関する情報を、社内のイントラネットを使って定期的に発信しています。また、社員による環境保全活動、社会貢献活動を中心に紹介した活動報告紙「応援団」(2002年4月に「Mec ing通信」を改称)を年4回発行しています。また、三菱地所の談話室では地域別ボランティア情報やNPOの発行誌、NPO支援の通販カタログ、環境関連パンフレットなどを展示して、社員の活動を支援しています。



取引先とのコミュニケーション

環境保全・循環型社会への取り組み

オフィス家具リユースネットワーク

三菱地所では1998年度から環境保全に関する社会貢献活動として、テナントの事務所移転や内装改修に伴うレイアウト変更等により不要となったオフィス家具や事務機器等を、社会福祉施設やNPO団体等へ提供し、有効利用して頂いています。2001年度はビルテナントの移転や、マンション用地購入に伴う旧建物取り壊し時に発生した家具等178点を5団体に提供しました



グリーン購入(事務用品)

三菱地所では、再生紙の積極的な使用、環境保全型商品の導入を進めています。使用する紙製品ごとに古紙配合率・白色度のガイドラインを策定し(1998年)これに沿って紙製品を購入しています。また1997年から解体作業を行った旧丸ビルの松杭をリサイクルして、封筒や本環境報告書(2001年度から使用)を作成しています。紙製品以外についても、三菱地所グループにおいて、再生品材使用商品、環境対応商品、分別可能な商品の購入を進めています。

地域社会とのコラボレーション

三菱地所グループでは、企業市民の一員として地域の人々と協力しあい、より良い社会のコラボレーション(共に創造する)をめざして、社会貢献活動を積極的に行っています。

一緒に創ろう！ 楽しい陶芸

「ものづくり」を通し地域の方々と交流する陶芸教室を開催しています。手の不自由な方が扱える道具を考案し、講師と社員ボランティアがお手伝いをしながら、オリジナルの作品作りにチャレンジしています。

この活動では、陶芸を通して生まれる参加者とボランティアの心のふれあいを大切にしています。



蕎麦でご長寿「いきいき配食そば」



地域における福祉活動の一環として毎年、「蕎麦でご長寿・いきいき配食そば」を実施しています。2001年度は千代田区と中央区の福祉施設の高齢者の方や障害者の方を対象に実施しました。蕎麦職人の「技と味」を堪能していただくと同時に、参加者自ら蕎麦打ちに挑戦していただきました。この催しには、多くの社員がソーシャルラーニング制度(就業時間内の社会貢献活動を許可する制度)を利用して参加しています。

社内バザーの開催

社員から提供された商品や書籍で毎年「チャリティ&ブックフェア」を開催しています。2001年度は社員に商品提供を呼びかけたところ1362点が集まりました。この催しでは、障害者が作ったオリジナルのクッキーや小物類も販売しました。

ここでの売上げは、障害者の自立支援としてNPOや福祉施設に寄付しました。



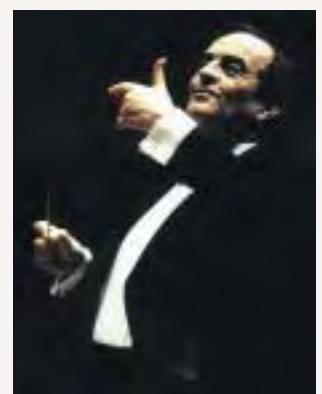
ジュニア合唱団応援 高齢者・障害者の方との交流

三菱地所では、芸術文化支援と地域交流・社会福祉を目的として1996年から毎年コンサートを開催しています。6年目となる2001年度は地域の高齢者・障害者を招待して新西六郷少年少女合唱団によるコンサートを開催しました。ふだん演奏会に足を運ぶ機会の少ない来場者からは、ジュニア合唱団の透明な歌声に心からの拍手を送って頂きました。千代田区・港区・大田区・横浜市の4カ所のコンサート会場では、児童養護施設や里親から巣立ち大学等に進学する子どもたちの修学費用を支援する「西脇基金」への募金を呼びかけ約12万円が集まりました。



オーケストラ支援

三菱地所は、スペシャルサプライヤーとして、1991年より「NHK交響楽団」を支援しています。同楽団は年間約140回にも及ぶ公演を行い国内外から高い評価を得ています。また「日本フィルハーモニー交響楽団」の後援も行っており、音楽による感動の輪の広がりを支援しています。



© NHK 交響楽団

障害者作家による作品展

障害者の自立支援に取り組んでいます。その一環として障害者作家による作品展を開催しました。知的障害のある作家が描いた「ウミガラスと仲間たち展」では、日本で絶滅寸前の野鳥「ウミガラス」を紹介。同時に障害者作家の作品を有料で貸出事業を行う「アートビリティ」の大賞展を開催しました。



NPO・NGOとのパートナーシップ

NPO・NGOは社会福祉や環境保全など、それぞれの活動分野で豊富な情報や知識、先進的な実践例を持っています。三菱地所グループは、NPO・NGOの活動を支援するとともに、より良いパートナーシップを築いていきたいと考えています。

自然について楽しく学ぶ「丸の内自然を楽しむ倶楽部」

「丸の内さえずり館」を拠点にした会員ネットワーク「丸の内自然を楽しむ倶楽部」では、都会の野鳥や草花、昆虫といったさまざまなテーマを設け、講演会や観察会などのイベントを年間約10回開催しています。この「丸の内自然を楽しむ倶楽部」には、都心で働くビジネスパーソンなど多くの方が参加しています。会員の皆様には、野鳥情報や自然観察会のスケジュールなどを載せたニュースレターを季節ごとに年4回、無料でお届けしています。



親子で自然に親しむ「夏休み親子環境学習」

親子で自然に親しんでもらおうと、「夏休み親子環境学習」を1997年から毎年実施しています。2001年度は「渡り鳥に会いに行こう!」を合い言葉に、習志野市の谷津干潟自然観察センターに出かけました。社員とその家族、千代田小学校の子どもたちや「丸の内自然を楽しむ倶楽部」の会員の方々が参加し、干潟の観察を通して自然の尊さを学びました。



My Message



(財)日本野鳥の会普及室長
安西英明さん

「丸の内さえずり館」と「丸の内自然を楽しむ倶楽部」は次の2点が注目されています。

1. 企業とNPOのパートナーシップ
2. 都心の自然へのこだわり

前者については、企業の社会貢献活動の好例として、たびたび他社の視察があり、後者は何度もメディアで紹介され参加者も増えています。また参加者の中から活動を担い企画にも関われるコアとなるメンバーも育ってきています。市民参加と、NPOのソフトとノウハウの提供、企業の支援という三位一体の活動は、共存と循環を考える21世紀型のムーブメントといえるでしょう。

目の不自由な方へお贈りする「野鳥と自然のお便り」の発行

財団法人日本野鳥の会と協力して、目の不自由な方に向けた「野鳥と自然のお便り」を制作しています。これは、野鳥の豆知識や自然情報を社員ボランティアがナレーションを担当してカセットテープにまとめたもので、希望のあった全国の視覚障害者の方や盲学校、盲老人ホームに季節ごとの年4回、お贈りしています。このテープ作成には、ナレーションを含め100人をこえる社員ボランティアが携わっています。



「丸の内さえずり館」の運営

財団法人日本野鳥の会とのパートナーシップにより、「丸の内さえずり館」を運営しています。写真や絵画、野鳥のさえずりや自然の映像を通して、かけがえのない地球の美しさと環境保全の大切さを、数多くの来館者に感じていただきたいと思います。



丸の内さえずり館 新国際ビル1階
開館 月～金 11:00～17:00
土 13:00～18:00
(日・祝祭日は休館)

目の不自由な方とともに「自然観察会」

「野鳥と自然のお便り」をお聴きいただいている皆様を招待し、皇居東御苑周辺の小鳥のさえずりや草花を楽しむ「自然観察会」を行っています。親子やご夫婦で参加される方や遠くは名古屋や長野から新幹線で来られる方もあり、「聴いて・ふれて」楽しむ充実した観察会となっています。2001年秋の観察会では、高円宮妃殿下が参加されました。



(財)日本野鳥の会から感謝状が贈呈されました。

2002年2月、(財)日本野鳥の会の小杉会長から三菱地所の高木社長に感謝状が贈呈されました。これは、(財)日本野鳥の会との協働で行っている「丸の内さえずり館」の運営や「丸の内自然を楽しむ倶楽部」の活動、「野鳥と自然のお便り」の制作など、当社の環境保全活動を評価いただいたものです。



「NPO パネル展」

NPOの活動を幅広く紹介し支援することを目的として三菱地所ビルマネジメント(株)との共催で、1999年から毎年、「NPOパネル展」を開催しています。横浜ランドマークタワーのスカイガーデンにて行っているこのパネル展では、横浜開港記念日に入場割引の特別営業を実施しています。この日の売上げの一部をNPOに寄付しました。



2001年度出展：WWF ジャパン
「海の仲間たち展」

「丸の内NPO プラザ」

NPO支援を業務とする「NPO中間組織」の「特定非営利活動法人日本NPOセンター」と「社団法人日本フィランソロピー協会」の丸の内移転を支援し、「丸の内NPO プラザ」が始動しました。「NPO中間組織」が丸の内に拠点を持つことにより、企業とNPOとの交流や地域のNPO活動が活発化していくことにつながります。2001年度は、この活動の一環として、三菱地所が会場を提供し、2002年1月～3月に「NPO連続講座」を開催しました。

行政機関・業界団体とのコミュニケーション

「土壌汚染対策法案」への意見提出

土壌保全対策の法制化にあたり、三菱地所は社団法人不動産協会の環境委員会委員長の立場として、環境省の「中央環境審議会土壌農薬部会土壌制度小委員会」に専門委員として参加し、不動産業界としての意見を2002年1月に提出しました。その結果、「土壌汚染対策法」が2002年5月に成立しました。

丸の内における物流効率化

三菱地所及び東京駅周辺の地権者で構成する「大手町・丸の内・有楽町地区再開発計画推進協議会」は、国土交通省、東京都、千代田区、物流事業者による「丸の内物流効率化実行委員会」

余ったカレンダーを アフリカの子どもたちへ

他社からいただいたカレンダーの一部を、老人ホームなどの福祉施設やマザーランド・アカデミー(NGO)の協力を得て、アフリカの子どもたちに贈っています。子どもたちは、カレンダーの数字や写真を使って勉強し、カレンダーの裏面で文字の練習をしています。2001年度はダンボール62箱分のカレンダーを贈りました。



写真提供：マザーランド・アカデミー

「書き損じハガキ」の回収で ガルニー奨学金

「書き損じハガキ250枚」を原資としてタイの中学生1人の1年間の奨学金を賄うことができます。三菱地所では、年間を通して書き損じハガキの受け付け事務局となり、国際協力のNPOである日本民間交流センター(ガルニー奨学金)に贈っています。タイでもっとも貧しいといわれる子どもたちの中学進学を支援し、2001年度は中学生2名の卒業までの学費にあてられました。

使用済みプリペイドカード・切手 で国際支援

三菱地所では、管理するビル内に使用済みのプリペイドカードと切手の回収箱を設け、社員に加えビル利用者にも協力を呼びかけています。回収されたプリペイドカードと切手は、NGOを通して、アジアの農村活動支援やアフリカでの植林活動支援などに役立てられています。



2001年度贈呈先
プリペイドカード：「地球の友と歩む会」
(アジアの農村活動支援)
切手：「タンザニア・ボレボレクラブ」
(タンザニアでの植林活動支援)

障害者自立支援プロジェクト

三菱地所の社会貢献活動の柱の一つに「障害者の自立支援」があります。2001年度は、障害者への総合的支援を目的とする特定非営利活動法人・日本就労支援センターと協働し、障害者自立支援のためのプログラムを開始しました。これは、当社社員や退職者ボランティアが、仕事で培ったノウハウを生かして障害者の自立をサポートするものです。

境負荷の低減を実現することができました。今後も再開発の進展と合わせ、大手町・丸の内・有楽町地区でのTDMの推進について引き続き検討していきます。

TDM：Transportation Demand Management
(交通需要マネジメント；国等の総合的な交通施策)

